Def,Doc 1907

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 鈴木 薫(クン) 二

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通リ宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

Def,Doc 1907

一、私鈴木薫(クン)ハ明治二十六年一月六日兵庫縣ニ生レ大正二年陸軍士官學校ヲ卒業後各職ヲ經テ一九四二年（昭和十七年）九月十二日ヨリ一九四四年（昭和十九年）四月マデ東京俘虜收容所長ノ職ヲ奉ジマシタ

現在ハ巣鴨拘置所ニ收容サレテオリマス

一、私ハ「新任俘虜收容所長ニ與フル陸軍大臣訓示」（法廷證一九六二號）ニ付左ノ如ク陳述致シマス

(一) 一九四二年（昭和十七年）九月二十九日陸軍省ニ於テ新任俘虜收容所長同職員集合教育ガ實施セラレ私モ俘虜收容所長トシテ之ニ列席シマシタガ其ノ席上當時ノ俘虜管理部長上村幹男中將ガ右陸軍大臣ノ訓示ヲ代讀セラレマシタ

其ノ席ニハ東條陸軍大臣モ木村陸軍次官モ共ニ臨席セラレマセンデシタ

(二) 右訓示代讀後上村中將ハコノ訓示ノ内容ニ付大要左ノ如ク說明セラレマシタ

Def,Doc 1907

(1)

本訓示中ニ「俘虜ノ處理ニ方リテハ固ヨリ諸條規ニ遵由シ之カ適正ヲ期シ公正ナル帝國ノ態度ヲ如實ニ中外ニ顯揚セザルベカラズト雖モ他方人道ニ反セザル限リ嚴重ニ之ヲ取締リ。。。。。」トアルハ次ノ意ナリ

俘虜ノ處理ニ當ツテハ俘虜取扱規則、俘虜取扱細則等ニ準據スルヲ要ス特ニ俘虜取扱規則第二條俘虜ハ博愛ノ心ヲ以テ取扱ヒ決シテ侮辱虐待スベカラズ」ノ規定ヲ遵守スベシ然レ共其取扱經ニ失シ不測ノ不詳事件ヲ惹起セザル樣注意スベシ結局俘虜處遇ニ關シテハ優遇モセズ又虐待モセズ寛嚴宜シキヲ得ルコト最モ肝要ナリ

(2)

本訓示中ニ「一日ト雖無爲徒食セシムルコトナク其ノ勞力特技ヲ我生產擴充ニ活用スル。。。」トアルハ次ノ意ナリ

現今我一億國民ハ老幼男女ヲ問ハズ夫々ノ能力ニ應ジ生產擴充ニ邁進シツヽアリ所謂「猫ノ手モ借リタキ時期」ナリ故ニ俘虜ニツキテモソノ健康、能力、特技ニ應ジ勞務不足ノ一助トシ勞務ニ從事セシムルコトヲ要ス

㈢

(3)

俘虜ノ勞務ニ關シテハ急迫セル勞務充足ノ立場ヨリ言ヘバ一日トモズ雖無爲徒食ナキヲ可トス然レ共俘虜ノ健康、能力、特技ヲ顧慮セスシテ不當ナル勞働ヲ强制スルハ不可ナリ又技術者熟練工ノ如キ揮セシムルコトニ着意スベシ

今度ノ戰爭ハ仲々簡單ニハ片附カヌ恐ラク長期戰トナルベシ從ツテ俘虜ノ健康能力等ヲ十分考慮シ適當ニ休日ヲ與ヘ且衞生ニ留意シ決シテ無理ヲセズ急ガズ合理的能率的ニ細ク長ク俘虜ヲ使用スルコトヲ「モツトウ」トスベシ

若シソノ取扱ニシテ當ヲ得ズ病人、死亡者ヲ出シタル場合ハ結局日本ノ爲ニモ大ナル不利トナルベシ

最後ニ上村中將ハ之ヲ要スルニ俘虜取扱ノ要諦ハ前述俘虜取扱規則第二條ノ精神ニ基ク「公正」ノ二字ニ盡キ右陸軍大臣訓示モ之ノ意義ヲ敷衍說明シタルニスギザル旨附言力說セラレマシタ或時上村中將ニ面接シタ時ニ同中將ハ私ニ次ノ如ク話シマシタ卽

Def,Doc 1907

チ

俘虜取扱規則、陸軍大臣訓示等ニヨリ俘虜ヲ公正ニ取扱フベキコトハ貴官ノ如キ俘虜收容所長ハ十分承知ノ處デアルガ俘虜取扱ニ付テハ誤解ヲ生ゼザル樣對外的ニ細心ノ注意ヲ必要トスルコトハ勿論尙一般日本人ノ眼ト耳ニ對シテモ決シテ注意ヲ怠ツテハナラヌ

民需用國內物資ノ窮迫セル現今ニ於テハ動モスレバ俘虜ヲ優遇シ過グルガ如キ印象ヲ一般國民ニ與ヘ易ク俘虜ニ對シテ不利ナル空氣ヲ釀ス懼レアルヲ以テ十分コノ點ヲ警戒スベシ然シ飽ク迄正義ニ基キ公正ニ取扱フコトハ斷ジテ忘ルベカラズ

例ヘバ過日東京品川俘虜收容所ニ於テ俘虜用糧食タル豚肉ヲ「トラック」ニテ運搬シタル現況ガ東京市民ノ眼ニ映ジタル爲東京市會議員數名ガ近衞師團經理部ニ出願シ「吾々市民ハ一片ノ肉ヲモ食フコト能ハザルニ拘ラズ俘虜ノミニ肉ヲ與フルハ何故カ」ト詰問シタリ同師團經理部長ハ懇々ト事情ヲ說明シ該市會議員等ヲ辛ウジテ納得セシメタル由ナルモ此ノ種事例ハ予上村自身ニ對シテモ屢々アリタ

ルヲ以テ貴官等ハ此等ノ微妙ナル市民ノ必理狀態ヲ洞察シ不當ニ日本人ヲ刺戟セザル樣細心ノ注意アリタシ

(四) 尙私鈴木ハ右大臣訓示中殘餘ノ部分ニ關シテハ次ノ如ク解シ且ソノ通リニ實施シマシタ

(1) 本訓示中（我國ハ俘虜ニ對スル觀念上其ノ取扱ニ於テモ歐米各國ト自ラ相異ルモノアリ」トハ歐米諸國ニ於テハ俘虜ヲ「名譽アル俘虜」ト考ヘ且取扱フガ如キモ我國ニ於テハ之ヲ「憐レムベキ俘虜」トシテ飽ク迄同情ト憐憫ノ情ヲ以テ處遇スベキデアルトノ意デアル

元來我國ニ於テハ古來ヨリ日本人ニシテ敵ノ俘虜トナルコトヲ最大ノ恥辱ト考ヘテイル然シ乍ラ敵將兵ニシテ武器ヲ捨テ投降シタ者ニ對シテハ飽ク迄仁慈、憐憫ノ情ヲ以テ取扱フ事ヲ以テ我武士道精神ニ合致スルモノトセラレテイル

(2) 本訓示中「特ニ俘虜ノ處遇ヲ通ジテ現地民衆ニ對シ大和民族ノ優秀性ヲ体得セシムルト共ニ皇恩鴻大ニシテ日本民族タルコト眞

一、

(一)

ニ無上ノ光榮タルヲ感銘セシムル如ク努ムルコトヲ要ス」トハ端的ニ言ヘバ日本人ニ對シ俘虜ヲ侮辱セヨトカ日本人ニ大イニ威張レトカイウコトデハ斷ジテナク日本人ノ美點ヲ示セトイフコトデアル

元來外國人並日本人ノ一部ニハ日本民族ハ歐米人ニ比シ道義的ニ劣ル野蠻人デアルカノ如キ考ヲ持ツテイル者ガ絶無デハナカツタノデ此ノ際道義ニ立脚シタ公正ナ俘虜ノ取扱ヲナスコトニヨリ如何ニ日本人ハ道義的優秀民族デアリ且正義ト人道トヲ尊重スル民族デアルカヲ如實ニ知ラシメ更ニ皇恩ノ鴻大無邊ナルヲ知ラシムルヲ要スルトノ意デアル

私ハ東京俘虜收容所長トシテ在職一年半ノ間俘虜取扱規則其他ノ規定ニ準據スルハ勿論右陸軍大臣ノ訓示ニ對スル上村中將ノ說明及自分ノ見解ニ基キ終始俘虜ノ取扱ニ善處シマシタ

參考マデニ二三ノ例ヲ擧グレバ次ノ如クデアリマス

(一) 右陸軍大臣ノ訓示ヲ周知徹底サセル爲屢々管下全分所長及派遣所

長ヲ集メ注意ヲ喚起スルト共ニ各現場ヲ機會アル毎ニ巡視シ以テ不當ナ勞役ノ防止ニ努メマシタ。コノ結果何レノ分所派遣所ニ於テモ俘虜ノ健康、階級、能力等ヲ無視シタ不當ノ勞役ヲ課シタ事實ヲ認メタコトハ絶對ニアリマセン

(二) 俘虜ノ給與ハ規定ニヨレバ將校四二〇瓦、下士官兵五七〇瓦デアツタガ此ノ規定ニ基ク定量以外ニ所要ノ增量ニ努メマシタ結果實際支給シマシタ量ハ將校、下士官兵共ニ一率ニ最初七八六瓦デ次デ六五〇瓦、六九〇瓦、七八六瓦、六六〇瓦、七四〇瓦ト多少變更セラレマシタ

之ヲ當時ノ日本人常食甲號三三〇瓦、乙號三九〇瓦、丙號（重勞働者）五四〇瓦ト比較スレバ俘虜ニ支給シタ最低量ノ時デモ日本人重勞働者ヨリ一一〇瓦多カツタノデアリマス。更ニ俘虜ニハ右ノ外勞働現場デ會社側ヨリ平均握飯一個（約七〇瓦）ヲ加給セラレマシタノデ俘虜ニ支給シタ實量ハ最低ノ時ト雖モ七二〇瓦以下デアツタコトハアリマセン

Def,Doc 1907

(三) 我々ノ最モ苦心シタノハ患者用食糧デアリマス患者ニハ明治製菓株式會社製ノ最モ良質ナパンヲ與ヘ特ニ重患者ニハ少量乍ラモ牛乳卵ヲ支給シマシタガ當時ハ牛乳ノ如キモノハ日本人ノ老人又ハ病人ニモ配給サレズ妊産婦ニノミ僅カニ配給サレタ狀況デアリマシタ

(四) 俘虜タル將校及准士官ノ勞務ニ關シテハ本所デハ彼等ノ希望ニヨリ俘虜ニ關スル郵便物ノ整理物ノ整理ニ當ラセマシタ所先任將校フランコム少佐自ラ主任トナリ他ノ將校等ニ業務ヲ分擔シ每日愉快ニ和氣靄々ト之ヲ實施シマシタ又他ノ分所デハ夫々將校ノ希望ニヨリ所内デ養鷄、養兎、養鯉、菜園等ヲ實施シマシタ

右ノ樣ナ將校ノ行ツタ勞務ハ勞務トイウヨリモ寧ロ慰安、娯樂的意味ノモノデアリマシタ

將校准士官、兵等ト共ニ同一勞務ニ從事セシメタ所ハ一ヶ所モアリマセンデシタ

(五) 赤十字ヨリ救恤品トシテ野球道具、バレーボール、チエツカー、カード、樂器等ガ送ラレマシタノデ各分所ニ分配シ將校其他ノ者ニ

Def,Doc 1907

(ハ)

自由ニ娯樂用ニ使用サセマシタ

中ニハ私金ヲ以テ樂器購入ヲ希望シタモノガアリマシタノデ之ヲ許シタ所非常ニ喜ビブラスバンドヲ編成シ一九四三年ノクリスマスニハ盛大ナ音樂會開催セラレ私ハ俘虜側ノ招待ヲ受ケ喜ンデ出席シタコトガアリマシタ

一九四三年末頃デアツタト記憶シマスガ東條陸軍大臣ハ何等ノ豫告モナク午後四時頃突如トシテ東京俘虜收容所本所ヲ約三十分ニ亘リ所内炊事場ヲ視察セラレ良クヤツテ居ルト滿足稱讃セラレ且ツ特ニ賞與金マデ贈與セラレマシタ

Def,Doc 1907

一、和二十二年（一九四七年）七月一日於巣鴨拘置所

供述者　鈴木　薫（クン）　二

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日　於同所

立會人　鹽安　原部　時三郎　明

Def,Doc 1907

宣　誓　書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ默秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

（署名
捺印）　鈴木薫（クン）二

//

Def Doc No. 1907

Exh No.

辯護側文書第一九〇七號

正　誤　表

鈴木薫二口供書

第八頁五行目左ノ通リ削除願ヒマス

「(四)俘虜タル將校及將校官ノ勞務。。。。。。。。。。」

第八頁十二行目左ノ通リ削除(印)及挿入(〇印)願ヒマス

「將校準士官、兵等ト共ニ。。。。。。。。。。。。」ヲ

「將校ヲ〇〇士〇官、兵等ト共ニ。。。。。。。。。」ト

DEF.DOC.#1907

辯護側文書第一九〇七號

鈴木薫ニ宣誓供述書正誤表

三頁八行目「急ガズ」ノ次ニ「焦ラズ」ヲ入レル

四頁十二行目「出願シ」ヲ「出頭シ」ニ改ム

五頁一行目「市民ノ必理狀態・・」ヲ「市民ノ心理狀態・・」ニ改ム

六頁六行目「野蠻人」ヲ「野蠻民族」ニ改ム

八頁五行目「將校及准士官」ノ内「及准士官」ヲ削除ス

八頁六行目「整理物ノ整理ニ當ラセ」ノ内「物ノ整理」ノ四字削除

八頁十二行目「將校准士官ノ兵等・・」ヲ「將校ヲ下士官兵等・・」ニ改ム